

国語科のベストミックス



東濃教育事務所

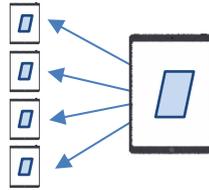
～「資質・能力を一層効果的に育成するための 1 単位時間における ICT の活用の在り方」～

つかむ

前時の学びとの思考をつなげる 願いをもつ、学びを自分事にする

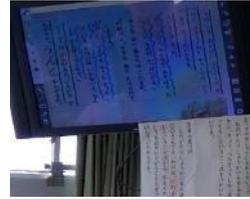
- ・前の時間に学んだことは～ことだったな。
- ・〇〇さんは～学びをしたんだな。
私と～ところが同じだな。
- ・この単元の出口では、～ことをするんだっただな。そのために、今日は前の時間の学びをつないで、～ことを追究したいな。(課題化)

意図的な復習・確認



スライド等を活用して端的に本時の基礎・基本になるような既習内容や考え方を確認できます。

共通の確認提示



単元を貫く課題や全員で把握したい内容を大型掲示装置で提示することで、瞬時に共有・確認ができます。

既習を振り返る



前時の板書や自己のまとめの蓄積から、個々の手で、前時の学びを振り返ることができます。

見通しをもつ

課題追究の見通しをもつ

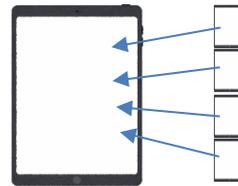
- ・課題を追究するためには、どのように考えたらいいのかな。
- ・これまでに学習したことが使えそうだな。
- ・仲間の～考え方も使って、自分一人で考えられそう。

考え方を共有する



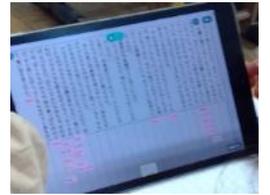
どのように課題追究を進めるのよいか、対話活動により、どの児童生徒も見通しをもつことができます。

構想・見通しの交流



配付・提出機能で他者と構想・見通しを比較検討します。児童生徒一人一人の見方・考え方を大切にできます。

考え方を可視化する



一人一人の考えを瞬時に視覚化でき、考えづくりの見通しや、個別最適な学びにつなげることができます。

考える

言葉を根拠に、

自己の考えをまとめる

- ・選択肢や仲間の考えから、さらに～ことも考えられそうだな。
- ・このことについてみんなはどう考えているのかわりたいな。

考えたことを表現・共有し広げる

- ・言葉から～考えて、～ことが分かりました。
- ・〇〇さんの考えを聞いて～ことも考えられると思います。
- ・～ことについて、よくわからないけれど、みんなはどう考えますか。

実態に応じた選択肢



児童生徒の実態に応じて、考えづくりの手がかりとなる情報をクラウドに上げて、児童生徒自身で選択できるようにすることで、主体的な学びを引き出します。

仲間の考えを参考にする



困った時は、仲間の考えを参考にできます。また、似た考え・違う考えの児童生徒と交流をします。自己の考えを広げ深める対話的な学びを実現します。

個の状況把握 (教師)



教師はタブレット上で児童生徒の様子を確認し、状況に応じて個別指導(思考を促す働きかけ)を行います。

深める

考えを深めたり、

知識・技能の習得を図る

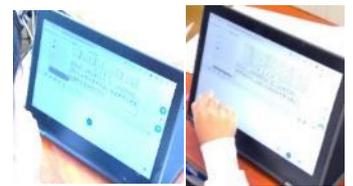
- ・なぜ～言葉を使ったのかな。
- ・～表現のよさは何だろう。

考えを指し示したり、板書化したりする



どの言葉から考えたのか、根拠を指し示しながら説明することで、自己の言葉で伝えることができます。また、可視化することで、仲間と考えを共有・比較しやすく、試行錯誤することで考えを広げ・深められます。教師用デジタル教科書のマイ黒板を使用すると、児童生徒の意見を即座に板書化して、考えを焦点化できます。

考えを再構築する



発達段階に応じて、音声入力・手書き入力を選択し考えをまとめます。仲間と瞬時に比較・検討をすることで、考えを深める時間を充実させることができます。

振り返る

自己の学びを振り返り、学びの蓄積と、次時の見通しをもつ

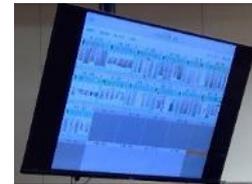
- ・はじめは～考えだったけど、〇〇という言葉から～考えに変わったな。
- ・仲間の～アドバイスや考えから、新たに～見方・考え方ができた。
- ・次は、今日学んだことを生かして考えたいな。
- ・〇〇さんは私と同じ～ことが分かったんだな。確かに～ことも大切だな。
- ・ここまで～ことを学んでいるから、単元出口までに～ことをするといいのかな。

自己の学びを書きまとめたり、入力したりして提出



本時の学びをノートに書きまとめ、それを写真に撮って、1枚の単元カードにまとめることで、思考の可視化、次時へのつながりを容易にします。

大型提示装置で共有・視聴し、よさを認め合う



理解度を提出することで、児童生徒にとっては自己評価、教師にとっては実態把握と適切な支援へとつなげます。また、それを共有し合い、認め合うことで、学びの実感につながることができます。